

一般口演

(2) 職場における鍼灸治療導入の試み —介護施設労働者への鍼灸治療の効果について—

○茂原 仁¹⁾, 岩 昌宏²⁾, 矢野 忠²⁾

明治国際医療大学大学院鍼灸臨床医学¹⁾, 明治国際医療大学健康・予防鍼灸学教室²⁾

要 旨

【目的】

労働者健康状況調査（厚生労働省）による労働者の蓄積疲労の悪化が浮き彫りになり，更には2006年の医療制度改革により，医療保険者に対する生活習慣病予防や社会保障費の削減が義務化された．これらのことを背景に，従業員の健康管理・健康増進への企業の取り組みが重要となり，より効果的で低コストな対応策が求められる．その対応策の一手段として，鍼灸治療の導入が考えられる．

しかし，産業保健分野における代替医療や鍼灸治療を導入した報告は少ない．現在，我々は労働者の疾病予防・健康増進を目的に，鍼灸治療を主体とした東洋医学的ヘルスプロモーションを実施している．今回は介護施設労働者を対象に鍼灸治療を行い，その有用性について検討した．

なお，本研究は2つの段階を踏んで行った．研究1は従業員の健康調査及び抱えている自覚症状の調査，研究2は従業員の自覚症状に対する鍼灸治療の効果について検討を行った．

【対象】

大阪府内にあるT介護老人保健施設で働く従業員81名を対象とした．

【方法】

研究1：自作調査票，CFSI及びSF-36を含めた記名式（任意）質問紙を用いて調査を行った．研究2：鍼灸治療を希望した30名を介入対象とし，鍼灸治療を原則週1回，計10回にわたり行った．鍼灸治療前後の評価にはVAS（Visual Analogue Scale）を用い，更に全鍼灸治療終了後にCFSIおよび印象評価を含めた自作調査票を用い，調査を行った．

【結果・考察】

研究1：CFSIの不安徴候，慢性疲労，気力減退，一般的疲労感，SF-36においては身体の痛み，活力，心の健康の各項目において全国平均に比べ低い傾向が見られ，当介護施設で働く労働者のQOLは低く，介護労働者の健康状態の低さを表す結果となった．

研究2：鍼灸治療介入群におけるCFSIの平均訴え数は介入により減少傾向を示し，各自覚症状に対するVASも有意に減少した．また，印象評価においても従業員の鍼灸治療に対する満足度は高く，鍼灸治療が介護労働者の健康維持・増進，QOLの向上に有用であることが示唆された．